

コアシンポジウム 2

「炎症性腸疾患：シームレスなアプローチを目指して」

Special situation におけるコンセンサスとピットフォール

Approach to the Seamless Management of Inflammatory Bowel Disease; Pitfalls of Consensus in Special Situations

主司会 青山伸郎（医療法人社団 青山内科クリニック）

副司会 長田太郎（順天堂大学医学部附属浦安病院消化器内科）

FDAで妊娠期カテゴリーD（リスクあり）であったチオプリンが2015年ECCOガイドラインを契機に有益性投与の方向となり、本邦でもチオプリンや生物学的製剤の有益性投与、付随する乳幼児の生ワクチン投与時期など、IBD 妊娠授乳期対応に関して SLE, RA, JIA と合わせて指針が2018年3月発刊され、同6月26日付でアザチオプリン、タクロリムス、シクロスポリンの本邦添付文書でも禁忌から有益性投与に見直された。小児科から成人診療科への移行期（トランジション）の問題点、若年男性ではチオプリンによる肝脾T細胞リンパ腫のリスク（ECCO 2015）、一方、高齢者ではステロイド回避の重要性（ECCO 2017）など各時期に特異的な留意点が集約されつつある。コアシンポジウム2年目では、これら Special situation に焦点を絞り、どのような場合が「有益性投与」なのか、またその結論に至った経緯に多業種を含めたSDM(Shared Decision Making) が如何に関与したかなど、示唆に富む報告を期待したい。